

第1回 双葉町復興まちづくり委員会

きずな部会 議事録

- 日時 : 平成24年11月12日(月) 午後3時05分～午後4時30分
■場所 : 双葉町役場埼玉支所 4階4-C
■出席者 : きずな部会委員
事務局(双葉町企画課)

(参照: 第1回きずな部会座席表)

1. 開会

【事務局 橋本 靖治】

それでは、これから第1回目の部会を始めますが、以降の進行は今泉課長の方にしていただきますので、よろしくお願いいたします。

2. 部会長並びに副部会長の選任について

【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

改めまして、生涯学習課長の今泉と申します。よろしくお願いいたします。この部会におきまして、部会長が選任されるまで暫時の間、私が議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。まず初めに、部会長並びに副部会長の選任でございますが、ご承知のとおり、部会の運営につきましては、委員会の規定を準用することとされておりますので、委員の皆さんの互選によりまして、部会長と副部会長を選出することになります。それでは、部会長につきまして、自薦・他薦を問いませんので、どなたかご適任の方、どなたかいらっしゃいますでしょうか。自薦・他薦を問いませんので、議論も含めてお願いしたいと思います。

【中村 富美子 委員】

宇杉先生、いかがですか。

【齊藤 宗一 委員】

宇杉委員と岡村委員、お願いします。

【岡村 隆夫 委員】

私は全体の委員会の副委員長になりますので、やっぱり部会は部会で、皆さんまとめられた方が良く思うんで。

【宇杉 和夫 委員】

自治関係が1人と教育関係が1人と、そういうふうなのが良く思うんですよね。

【高野 泉 委員】

岡村委員が教育関係だから。岡村委員でお願いします。

【齊藤 宗一 委員】

賛成多数でなくて、全員だ。

【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

37 自薦でなくて他薦でございましたけれども、宇杉先生の方から、自治関係とあとは教育関係と
38 いうようなご推薦でしたけれども、お名前はなかったんですけれども、いかがかなということと、
39 具体的に、お名前が宇杉先生と岡村先生と、お二人のお名前が出ましたけれども、これについて
40 は皆様、賛否をとる前に拍手ということもありましたけれども、改めまして、自治関係と教育関
41 係と申しますか、それ以外でも結構でございますけれども、改めてもう1度、確認の意味で、自
42 薦・他薦問いませんので。それではどうでしょうか。お1人ずつ若干の考え方を部会長・副部会
43 長も含めましていかがですか。

44 【齊藤 宗一 委員】

45 変わるかもしれないしな。自治会の総会が控えてるから変わるかもしれないです。

46 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

47 大住委員いかがですか。

48 【大住 宗重 委員】

49 自治会長、教育関係ということで、齊藤委員が自治関係のやっていますというのはあるんです
50 が、教育関係は岡村委員が良いのですが、本体の括りという関係があるということで。宇杉先生
51 と齊藤委員あたりはどうかと思います。皆さんの意見を聞いていただいて。

52 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

53 それでは森山委員、いかがですか。

54 【森山 真由美 委員】

55 他薦と言われましても、私はご存知の方があまりいないので、どうしようかなと思っているの
56 ですが、毎回来られる方が良いのではないのでしょうか。そのようなことでお願いします。

57 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

58 松本委員、いかがですか。

59 【松本 浩一 委員】

60 岡村副委員長さん、これと兼ねてはまずいんでしょうか。

61 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

62 特に、兼ねても問題はございませんけれども、幅広くというようなことはあると思いますけれ
63 ども。

64 【松本 浩一 委員】

65 では、宇杉先生と齊藤委員。

66 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

67 岡村委員は。

68 【松本 浩一 委員】

69 良いと思うのですが、兼ねるのはちょっとまずいんじゃないのかと。副委員長だから。

70 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

71 中村委員、もう一度、改めてお願いしたいと思います。

72 【中村 富美子 委員】

73 撤回しないで、宇杉先生と岡村委員でお願いします。

74 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

75 高野委員、いかがでしょうか。

76 【高野 泉 委員】

77 私も、経験のある宇杉先生と岡村委員。齊藤委員がいけないということではなくて、やっぱり

78 先輩ですし、まとめていくのには、先輩をお願いした方が良くと思います。

79 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

80 今のお名前が出たお二方につきましては、ご意見をお聞きしなかったんですけれども、宇杉先

81 生改めて、お考えをもう一度お願いしたいと思います。

82 【宇杉 和夫 委員】

83 直接的にはやはり、自治と教育と、福祉と行政と、いくつかに分かれてありますので、それら

84 を担った方が良く私は思います。

85 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

86 それでは、岡村委員、お願いいたします。

87 【岡村 隆夫 委員】

88 特にきずなは、ここの標題にも書いてありますけれども、地域のことについて、ある程度理解

89 力がある方という意味と、それから現在も、やっぱりいろいろ、そういうところで生活している

90 ということが出て来ていますから、その辺の意見を、よく理解されている方という意味で、私は

91 齊藤委員に部会長で先行していただいた方がまとまりやすいんじゃないかなという気がいたし

92 ます。あとは、行政とかという意味では、高野泉委員が行政が長い訳ですから、総務課長を長い

93 ことされたということもありますから、そういう意味で、齊藤委員と高野委員にお願いできない

94 かなと思います。

95 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

96 ありがとうございます。皆さんからひととおりのご意見をお伺いしまして、いろいろ、それぞ

97 れお考えあるようなんですけれども、きずな部会でコミュニティについての方針と言いますか、本会

98 議に対する意見を申し述べるという重要な部分でございますので、時間もあれですので決めさせ

99 ていただきたいと思います。お名前が挙がってます。それでは挙手で決定したいと思います。

100 [事務局一任と呼ぶ委員あり]

101 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

102 事務局一任ということですけども、よろしいでしょうか。

103 [異議なしと呼ぶ声あり]

104 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

105 それでは、部会長に、行政事務も含めて精通しているということで、高野泉委員をお願いした

106 いと考えています。よろしいでしょうか。

107 [拍手する委員あり]

108 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

109 それでは、全会一致となるようなことですので、部会長を高野泉委員をお願いしたいと思います

110 す。よろしく願いいたします。続いて、副部会長でございますが、やはり、教育面で精通をし

111 てらっしゃるということで、副委員長になりますけれども岡村委員に副部会長ということで、お

112 名前も出ましたのでいかがでしょう。

113 [拍手する委員あり]

114 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

115 それでは、改めてお名前を発表いたします。きずな部会の部会長に高野泉委員。次に、副部会
116 長に岡村隆夫副委員長ということで決定させていただきます。よろしくお願いいたします。あり
117 がございました。それでは、決定いたしましたので、次からの議事につきましては、高野部
118 会長にお願いしたいと思います。なお、部会長、副部会長につきましては、こちらの席にご移動
119 をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

120 【高野 泉 部会長】

121 それでは時間が経過してしまうので、部会長を引き受けます。なにか一気に嵐が私に降ってき
122 たようです。私の大先輩である岡村副部会長は町の教育委員長、人生の大先輩でもあります。ま
123 た、本委員会の副委員長でもありますので心強いという形になります。それではきずな部会を進
124 めていきますが、皆様のご協力を得て、立派なきずな部会を作り上げたいと考えておりますので、
125 ご協力をよろしくお願いいたします。

126 【岡村 隆夫 副部会長】

127 今、高野部会長からありましたが、高野部会長の町に対する今までの経験というのは、我々は
128 とてもじゃないけど追いつくものではありません。そういう経験の中で、本当に町民の考え方と
129 かそういうものは、高野部会長には染み付いていますから、そういう意味でお願いいたしました。
130 私はあくまでもサポートしていただけですが、できるだけ、今、委員会の方でもやらしてもらっ
131 ていますので、つながりは多少分かっているつもりなので、そういうことで補佐をさせていただ
132 ければと思います。よろしくお願いいたします。

133 【高野 泉 部会長】

134 また、議事に入る前に、心強い事務局がありますので、これからよろしくお願いいたします。

135

136 3. 議 事

137 (1) 双葉町民のコミュニティの維持について

138 【高野 泉 部会長】

139 それでは早速、議事に入りたいと思います。1 番目の「双葉町民のコミュニティの維持につい
140 て」ということで、協議に入りたいと思います。事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

141 【事務局 橋本 靖治】

142 それでは、今日議論していただく前に、それぞれ資料の詳細についてご説明します。これから、
143 資料 2、資料 3、資料 4、資料 5 について簡単に説明させていただきます。

144 まず資料 2 をご覧ください。これから議論していただきます論点についてまとめた資料でござ
145 います。双葉町民が全国に避難している中で、町民のコミュニティを維持していくためには、ど
146 のような取組が求められるか、これについて、この後、活発な意見交換をしていただければと思
147 います。それに付随しまして、資料 3、4、5 をご用意しておりますので、私からは、資料 4 と 5
148 を説明します。資料 3 は少し長くなるかなと思うんですが、今泉課長の方からご説明いたします。

149 まず、資料 4、先程の委員会の方でも説明ありましたが、全国に避難している分布図、
150 どこの県にどれだけの方が分布されているかというのを、現状を把握していただくために、この

151 資料を準備いたしました。右下の方に書いてありますが、福島県内に 3,671 名、県外には 3,295
152 名、今現在、福島県内に半数以上の方がお住まいです。福島県内の内訳というところが、右側の
153 上の方に示されております。1 番多いのがいわき市 1,392 名、次に郡山市 710 名ということです。
154 北海道から沖縄まで、多くの方がいろいろなところに避難されているという現状でございます。
155 資料をめくっていただくと、それぞれ年代別にどのような割合になっているかというのが
156 カラーで示されてございます。これは後程、参考にさせていただければと思います。

157 次にご説明しますのは、資料 5、今現在、私ども企画課の方で 7000 人の復興会議ということ
158 で、主要な避難先の東京、埼玉、つくば、そういったところを回って、町民の方から直接意見を
159 伺っているところでございます。それまで町民の方からいただいたご意見を、このコミュニティ
160 の維持に関するものということで、ある程度分けて、抽出した資料でございます。その中で多い
161 意見がどういったものがあるかということをご説明いたします。「①町からの情報提供を求める
162 意見」それから「②町民同士の連絡が取れる環境を求める意見」「③町民の交流会を求める意見」
163 このような大きな見出しでいくと、こういう意見があります。特に、私個人的に、感じていると
164 ころは、どこに行っても町からの情報がないというご意見が非常に多くあります。町からの情報
165 が少なく、先程、委員会でもお話ありましたが、今後、私たちが双葉町に帰れるのかど
166 うかも分からない、そういったところの情報を提供してくれというふうなものであったりですと
167 か、あと賠償の問題ですとか、中間貯蔵施設の問題。とにかく国・県、それから町からの情報が
168 少ない、そういったご指摘を受けているところでございます。ただ、町からの困り事と言いま
169 すか、今後、委員の皆様からご議論いただきたいところですが、情報の提供の手段というのが、こ
170 れだけ全国に町民の方が散らばってらっしゃいますので、なかなか難しい部分がございます。今
171 日は秘書広報課長も委員になっていただいているので、詳しいところをお話いただけると思っ
172 ているのですが、今現状として、町からの情報提供というのは、町の広報紙とか、チラシ・かわ
173 ら版みたいなものを送ったりですとか、あとはインターネットで情報提供したり、それからデジ
174 タルフォトフレームというものを各世帯の希望者の方に配って、それで随時、町からの情報を流
175 す、そういった手法を取ってございますが、それでもまだまだ自分の欲しい情報は得られないと
176 いうご指摘をいただいております。そういったところも含めて、こういったやり方が良いんじ
177 ないかとか、今後求められる提案など、委員の皆様からいただければと思います。

178 以上、私の方から、資料 2、4、5 について説明しましたので、引き続き、資料 3 について、今
179 泉課長の方からご説明いただければと思います。

180 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

181 それでは、私、今回から部会がスタートということで、生涯学習課長の今泉と申しますが、オ
182 ブザーバーとして参加させていただきます。

183 まず現状は、双葉町が取り組んでいる内容の概要をご説明申し上げます。町民のコミュニティ
184 の維持に関する町の取組ということで、きずな部会資料 3、これをご覧いただきたいと思いま
185 す。現在、被災者の分散、広域化が進んでおります。今後の生活基盤を整備しまして、就業、就労・
186 就学などの支援など、きめ細かなフォローアップが必要とされております。このためには、コミ
187 ュニティの維持がたいへん重要になってきております。事故前までは、それまでは、それぞれの
188 行政区、隣組単位で、それぞれコミュニティが形成されておりました。皆さんで助け合って、生

189 活をして来たというのが、これまでの状況であります。また、これらによりまして、それぞれの
190 地区の盆踊りや神楽など地域伝統芸能と申しますか、そういうものが、文化の継承を含めて行わ
191 れてきたというのが、これまでのところでございます。町もしくは行政区がまとまった形での生
192 活基盤、これが現在ありません。そういう形の基盤がありませんと、地域のコミュニティは崩壊
193 していくのではないかと考えております。また、自治体としての形がなくなる不安があります。
194 生活の基盤であります地域コミュニティ、これにつきましては、地縁や長年の付き合いから生ま
195 れる心の通い合いであります。地域のきずなを結び、コミュニティの維持・再生を図ることが、
196 長年地域に根付いてきた貴重な伝統文化などを継承するとともに、問題になります今後の新たな
197 担い手の育成も図らなければならないと考えます。

198 それでは、コミュニティの維持についてということで、■の1つ目でございますが、皆さんの
199 ご意見にも、先程の本会の資料の中にもございましたが、町民が集まるコミュニティ施設、場所
200 の確保というのが、数多く要望としてあったような感じでございます。2つ目として、従来の行
201 政区等、繋がりのある組織の再構築。現在1年8ヵ月過ぎまして、やはり、全国41都道府県の方
202 方に分散して、皆さん避難されております。再構築をするためにどうするかという大きな問題も
203 ございますが、再構築を加えておきました。これについては、先程、本会でも議論になりました
204 集中した居住地、仮の町という形も当然、大きく関連してくるかと思えます。あと具体的な内容
205 につきましては、地域コミュニティを図るための、町民が定期的に参加できる事業の展開という
206 ことが、具体的には大事な要件になるのかなと思えます。

207 現時点では、■の2つ目でございますが、現時点ご不満等もいっぱいあるかと思えますが、コ
208 ミュニティという形で実施している事業としまして6点ほど挙げております。高齢者大学、郷土
209 文化教室、健康生活学級、婦人学級、それから、それぞれの自治会等で今年実施いたしました
210 花いっぱい運動実施自治会に対する助成、盆踊り実施自治会に対する助成ということで、現在は
211 最小限でございますが、実施しております。それから、次のページにカラーの事業開催のお知らせ
212 ということ、参考に添付させていただきましたが、これにつきましては、町の広報ふたばと
213 一緒に発送させていただいております。プラス、それぞれの時期に合わせまして、対象者の方々に、
214 郵送で、お知らせということで、各個人にもお知らせをしております。

215 あと、■の3つ目でございますが、直接、コミュニティという形になりますか。教育委員会、
216 生涯学習関係で実際に持っておりました委員会・団体等が11ほどございますが、それぞれの委
217 員の方が頑張っていらっしゃいますが、その中でも2番、3番、4番、7番ということで、活動
218 ができないということで、活動を休止している委員会・団体等がございます。その他については、
219 活動と書いてございますが、ごく一部の活動に止まっているのが現状でございます。参考ですが、
220 1番下の芸術文化団体連絡協議会につきましても、なかなか、皆さんが集まって、これまで双葉
221 町体育館で発表会なり、展示会なりを実施しておりましたが、今回、郡山市で12月3日、4日
222 と、皆さんが集まりまして、作品を持ち寄るという形で、作品の展示会を開催するということに
223 なりました。これらを含めまして、最低限のコミュニティのきずなを保っていこうということで、
224 現在活動をしている状況であります。なお、全国的にどのように展開するかというのは、この中
225 には現在実施しておりませんが、この部会の中で議論していただきまして、良い形の意見を反映
226 できればというふうに考えております。以上です。

227 【高野 泉 部会長】

228 ありがとうございます。それでは、今、いろいろとコミュニティを進めて行く中で、自治会
229 で代表者されている齊藤委員もおられますし、また、児童・生徒たちをまとめる学校の校長先生
230 はじめ、婦人会の会長さんもおります。きずな部会は良いメンバーが選ばれ今回来ているのかな
231 というふうに感じております。そのようなことで、自分等の意見でもよろしいですが、コミュニ
232 ティを維持していくためには、双葉町としてどのように取り組んでいったら良いか、この資料な
233 どを参考に、皆さんからのご意見をお願いしたいと思います。ざっくばらんな意見で、飾らない
234 意見でいい良いと思います。

235 【齊藤 宗一 委員】

236 町にしても行政区にしても、コミュニティを図るということなんですけれども、この芸能祭な
237 んかを引き出すような方法ですか。例えばダルマ市で各行政区の神楽をやるとか、そんな時、み
238 んなに連絡して「いかがですか」と。ただ、広範囲にありますから、交通費ばかりでなく宿泊
239 費までかかる訳ね。うっかり来いと言っても、あっちもお金がかかる訳です。簡単に申し上げま
240 すけれども、その位の助成等がもしあれば、その相手方も来られるのかなと。例えば、今度1月
241 12日、13日とダルマ市をやります。いわきの仮設で。去年よりはたぶん人が集まるのかなと。
242 あと、その中でも、どうせやるんだったらば、神楽祈祷もやってみたいなど。各行政区にまた声
243 をかけて。そうなるとやっぱり、そこに泊まるようになります。遠いところから来ればね。せっ
244 かく久しぶりに会って、やっぱりこっちの方へ今後寄りたいし、話もしたいし。ですから、お金
245 がかかることが出てくる訳なんです、その芸能祭の集まりばかりでなくても、そういったこと
246 を町の方で対応できるかということなんです、お金がかかることなんです。そういったこと
247 が1番。まずはそうやって集めたい。そして、あとは伝統芸能の方は歴史的にね。そんなことも
248 考えているんですが。いわきのダルマ市であればそれ位かな。郡山も、話飛んでしまっただけな
249 んですけども、先月の27日にあった芸能祭。郡山でやって、その中で日にちは知らなかった
250 だけども、山田の人と前田の人と郡山の人と、夜に一緒になった訳。やっぱり懐かしくてね。
251 話は絶えなかったです。同じ双葉町の芸能ばかりだったから。そんな和気あいあいの中で、お
252 会いしています。そういったつながりをつくってやる。ただ、それにはちょっとお金がかかります。
253 あと、県からでも国からでも助成をいただくというような、役場で検討していただければ。
254 そんな感じですね。

255 【高野 泉 部会長】

256 ありがとうございます。皆さんから、ご意見を出していただいて、最後に、宇杉先生にまとめ
257 てご意見をいただきます。婦人会の中村委員。

258 【中村 富美子 委員】

259 婦人会は、現在は、県の方は休止しております。1年間は休止ということで、双葉郡の婦人会
260 は中止になったんですね。2年目に入りまして、どうするかということで理事会をやったんです
261 けど「やっぱりできないだろう、郡の方では休みましょう」ということで、郡の理事会では、婦
262 人会は休んでいます。ただ、ここの騎西高校にみんなで被災して来た時に、埼玉県のボランティア
263 アさん、町・県や加須の皆さんがすごい支援してくださったので「お返しできることは、何かな
264 いかな」と思っていました。お金のかかることは何もできないから「何かないかな」と言ったら

265 「流れ山やってるから、流れ山をやろう」ということになり、婦人会の人たちみんなで出したん
266 です。一番最初は、15人位が「協力しようか」ということでやったんですけど、まだ衣装を公
267 民館に入れたままで、向こうから持って来てないんですよ。なので、原町の文化財から衣装を借
268 りてやったんです。それで、加須のお祭りに出たんですけど、「すごいね、あんなの見たことな
269 い」と、大変好評でした。それがきっかけで、花咲徳栄高校の先生方が是非と言うので、それを
270 みんなでやって披露したりしているうちに、だんだんとロコミで「双葉町の流れ山はどんなのだ」
271 ということになりました。流れ山なんていうのは、ここで初めて聞いたんだか、どうだか分かん
272 ないんですけど、「そうまりゅうやまおどりの会」なんて言われてね。「そうまながれやま」でな
273 くて、「そうまりゅう」まで行くんですよ。最初「そうまりゅうやまおどり」と言われて、みん
274 ならで笑ったんですけど。あの「やまおどり」をやってくれと言われて。「相馬・流れ山」と切っ
275 てあるんですけども、読み方が「そうまりゅうやまおどり」なんですよ。それで、みんなの前で、
276 「双葉町婦人会の「そうまりゅうやまおどり」という踊りをご披露します」と言われて、「違う
277 な」と言ったんですけど、何度も何度もそれを話をしながら、「いやそうまながれやまなんです
278 よ」と。「そうまながれやまおどり」ということで、みんなに分かってもらってからは、もう何
279 回目位でしょう。勘定できない位やりました。それで私は10月につくばの方に住居を借りて出
280 たんですね。それでも、いろいろな要望なんかがあった時には、いつでも来るからということ
281 していたもんですから、事務局の役場の職員も、婦人会と一緒にやっていただいて、向こうに行
282 ってからも何度も来ています。そうしたら、婦人会の人もだんだんといわきの方に行かれたりね。
283 婦人会の名簿を出すのにも個人情報があって、出ないんですよ。それで、みんな持って来な
284 ったもんですから、誰がどこにいるか分からなくて、その時は役場の職員には本当にお世話にな
285 っています。全部、やってもらってるんです。それで、みんなに出してもらって「参加してもら
286 えんか」とやっていたのですが、だんだんとみんなも遠くに行き落ち着き始まって、出てくださ
287 る方もだんだんと少なくなっちゃったんです。私は何かあった時はすぐ来るんですけど。それか
288 ら、埼玉コープさんにはすごいお世話になってるんです。埼玉コープさんが、6月ちょっと前か
289 ら毎週木曜日に、味噌汁の提供をするようになったんです。婦人会でも何かやれないかというこ
290 とで、前には、年寄りにおかゆ作るボランティアをやったりしました。味噌汁を作った時は「お
291 手伝いしましょう」と言うんで、みんなに声を掛けてやりました。そうしたら、経費が全然ない
292 ですよ。実費でご飯食べて帰って行くんですよ。何かと言うんで、補助金今までどおり
293 128,000円を出せば、何とかなるだろうということで、それをもらって、やったんですけど、本
294 当に弁当代だけで終わりなんです。128,000円は弁当代だけで消えちゃって、何もあとは出せな
295 くて、今年度は200,800円を出すと、承認していただいて、200,800円の補助が出たので、今年
296 度は、少しは、遠くから来た人に2,000円とか3,000円の電車賃でもあげられるかなと計画はし
297 てるんですけど。なかなか厳しいもんですから、1月のいわきのダルマ市の時にも、みんな福島
298 の方に行ってるから、そこに向けてやろうと今、計画していますので、一生懸命行ってます。そ
299 れから、つくばの場合は、婦人学級でなくて、みんな集まって、それで、「婦人、女の人だけ
300 集まって計画を立てるんじゃなくて、子どもも大人も、老人も、男も女も集まれるつくば生活学
301 級にしてほしいと私は提案したんです。そうすると、今は向こうの方で仕事もしていないし、若者
302 も、おじいちゃん、おばあちゃんもみんな、仕事もしないで、畑いじりだのを自分の庭のところ

303 なんですけど、やっているんですね。何かあった時には、みんな声を掛けられるように、婦人学
304 級じゃなくて何かないかということで計画をしてやっております。おかげさんで、今泉課長さん
305 がいろいろな教育文化とかでやった時に来てくださって、みんな連絡網があれで、「学級の方か
306 ら連絡したかい」と言われるんですけど、私は住所も何も分からないんで、それで、みんな役場
307 にやってもらっているんで、私は、「皆さんに周知はできないんです」と言う、「聞いてない」
308 とか、いろいろやっぱりあるんですけど、私は分からないんで、やっぱり皆さんで話しながら、
309 「誘い合って出ましょう」と言ったりしてやっております。今のところ、そんなところでやって
310 いますが。1番だんだんと困ってきたのは、ゆとりがあるというか、だんだん気持ちに余裕が持
311 ってきたというか分からないんですけど、コミュニティがすごい崩れて来てるんですよ。親子
312 はどうかな。離れたりしている人たちも、親子とのコミュニティ、それから、地区のコミュニ
313 ティと、それから、つくばでもやっぱりだんだんと、地区が違ったりすると、今までの人で輪に
314 なっちゃうんですよ。みんなで声掛けると、あの人とは行きたくないみたいなね。そういうの
315 をなくすために、みんなで話をして声を掛けるんですけど、やっぱり出てくるんですよ。「向
316 こうからこんな聞いたんだけど、こんなあるんだ」と言うんだけど、「お金もらってる」と
317 言うんだけど、「誰にも分けてない」、なんてね。そんな変な噂が出てくるんですよ。そんなこと
318 じゃないんだと言っても、「そっちの方ではもらった」とかね。助成とかね。自治会の方の中
319 も、「これから申請すんだよ」とか言っても、「出たはずだ」、「みんな使ってるんだろう」、とか
320 ね。そんなのが、どんどん積もって行って、「そうじゃないよ」と言っても、他の、私らのつく
321 ばの並木というところなんですけれども、他の町の人もいるんですよ。それで、その自治会も
322 あるんで、その兼ね合いが結構だんだんと難しくなってね、言いたいことを言い放題で。言うだ
323 け言えばまた、輪ができてくるだろうと思って、みんなそうとしながら。なにしろ、子どもた
324 ちは元気に行っております。それで、並木小学校と並木中学校にみんな元気に、10何人位で行
325 くんですけど、いわきの方の先生が来てくださって、それで結構お母さんも全部福島から集まっ
326 たお母さんたちで集まったコミュニティをとって、それで輪を作って、芋煮会をやろうとか、子
327 どもたちと芋版を作ろうとか、みんなで話をして、結構、お母さんと子どもたちと、子どもたち
328 も福島県から来た人たちはコミュニティ良くとれているみたいです。うちの方はそんな状況です。

329 【岡村 隆夫 副部長】

330 今の中村委員の意見を聞いて町の方に確認したいんだけど。今、中村委員とかいろいろな
331 ところで話を聞いてて、やっぱり、コミュニティをつくるということは、人が基本です。その人
332 と人の連絡が取れないというところに、このコミュニティが希薄になっている問題の1つ大きな
333 要因ではないかなと。私もいろいろところで聞いて、町の方に確認したいんですが、その個人
334 情報保護法ということで、非常に厳しい連絡の仕方をしている訳ですよ。それは今まで電話帳
335 を作っていた時に、個人情報保護法は、一体どういうふうなのか。町にあった時は個人情報じゃ
336 ない訳ですね。ちゃんと電話帳が確実に配られている訳ですから。私よく分からないんだけど、
337 これとの関係はこれは何か分かる。

338 【齊藤 宗一 委員】

339 電話帳は町でなくてNTTでやってるんだ。

340 【高野 泉 部長】

341 双葉町はまだ作成されていないけれど、今、岡村副部会長の話や皆さんから出た意見を聞くと
342 新電話帳を作成する必要があると。郡内の他の町で新電話帳を作成している情報を得ております。
343 お互いの連絡は岡村副部会長が言われたように電話帳のようなものがないとできない。ですから
344 これは、プライバシーの問題や法的に難しいこともありますが、本人の同意をいただければ、電
345 話帳を作るわけです。本当のきずなというのは、人と会ったときに、「おぼんです」とか「こ
346 んばんは」、「おはようございます」とか声をかけます。ところが避難している皆さんの声を聞いて
347 いますと、日常のあいさつ言葉が変わっていたのです。何が変わったかという、お互い、「今
348 どこにいるんだ」、「どこに住んでるんだ」というのが必ず会話に付いてくるのです。ということ
349 は、お互いに住んでいるところを知りたい、もちろん深くではなくて、元気であるのか、という
350 ことでしょう。私も最後に話そうかと思っていましたが、新電話帳なる連絡網の作成が必要です。
351 今どこに避難しているのか、そういうだけの簡単なものが必要なのかと感じます。

352 【岡村 隆夫 副部会長】

353 そこに情報というものが出来て、それがきずななり何なりにつながっていくということで、
354 今 NTT だとかどこだとか、やっぱり情報の伝達の仕方も、町は町でやらなければいけないんだ
355 けど、それはきずなはきずなとしてもね。何かこう確立した情報の展開というのが必要じゃない
356 かということ、中村委員の話聞いて、私、意見申し上げた。

357 【齊藤 宗一 委員】

358 今の電話帳の話は、7000 人の復興会議でもちょこちょこ出ていたし、町長にも話をしたばっ
359 かりだったんですが、ぜひともこれ役場側で、町長も個人の許可を得ればできるはずですから、
360 それをやっていただきたい。あとは連絡網なんです、やっている行政区とやっていない行政区
361 がある。各行政の集まりですか、総会を兼ねながら、集いを持っている。終わってからの報告で
362 はなくて、やる前に、いついつにこうしてやりますよと。そして、代表者の電話番号を教えて、
363 提出して、連絡が付かなかった人はここに。だって、役場で全部知ってるはずなんだから。そ
364 こに行く訳なんだから、毎月のお便りに。そういったものも載せていただければなど。そうする
365 と今度、気のある人は、行政区の人に電話して、行かれっか行かれぬか。できれば、誰かに連
366 絡してほしいとか、居場所の連絡がほしいとか、そうすると今度、そうした時も直接連絡できる
367 ようになるし。区長さんのところにさえ連絡いけばいいんだから。

368 【高野 泉 部会長】

369 今、町はやっているようです。広報に出ていますね。

370 【大住 宗重 委員】

371 今、齊藤委員から出ました、各地区の総会の事前案内ですが、区長さんも日にちをあまりない
372 中で来るものですから、広報紙は前の月の上旬で締めている。そうすると、終わった情報しか、
373 紙ベースでは載せるのがなかなか厳しいんですね。あと、やる前は電子情報のデジタルフォトフ
374 レームで2週間位前とか、1ヵ月前に、区長さん持ってくるものは事前に載せています。電話番
375 号と参加の案内を載せてございます。あと先程、電話帳の話ありまして、現在、富岡町で電話帳
376 を作っております。これは、社会福祉協議会が町の協力を得て、電話帳を作成したということで、
377 当然町でも本人は携帯電話が主に使っているんで、やはり携帯電話は個人情報に関係、特に女性
378 の方は、なかなか本人の了解をもらわないと載せられないということで、富岡町の電話帳を私、

379 参考に見せていただいたんですが、住所しか載せない、あとは世帯主みたいな人だけの携帯電話
380 だけ載せる人と、いろいろやり方はあるようです。それで、当然、町の住民生活課、検討はして
381 おります。

382 **【岡村 隆夫 副部会長】**

383 これも情報なんですよ。これもないんですよ。

384 **【松本 浩一 委員】**

385 今、婦人会長さんの方から、舞踊の名称とか、双葉町の大事な文化伝統についてありました。
386 そんな意味でも、今後、双葉の学校を続けていくという意味で大事だと、私は思っています。と
387 申しますのは、前任の浪江も二本松に避難しまして、確か若干 30 人位でしたけれども、町のバ
388 スで、体験活動に出かけました。菊人形を見に行っても、何を見に行っても、結局は自分の地域
389 ではない訳ですよ。それで、私とか校長と全員で相談しました。浪江の文化、例えば近くの相
390 馬焼の工房で体験しないと、子どもたちにとって、浪江なんて何もなくて終わっちゃうというこ
391 と。総合的な学習で、体験を通して、そういうふうな傳承をしていく。学校が再開しないこと
392 にはしょうがないですけど、そうじゃないと私たち大人は、今当面のつながり、きずなで良いんだ
393 けれども、長期的に子どもたちの育成ということを考えると、そんな意味でもずっと学校の再開
394 を早くしてほしい、早くしてほしいというふうに願っておりました。

395 **【齊藤 宗一 委員】**

396 私も先程来、学校の再開の話を書きましたけれども、やっぱり、学校があるところは違うんで
397 すよね。まとまって、仮設があって、学校があって。あそこに行った時は、富岡だったかな。好
398 ましかったな。

399 **【森山 真由美 委員】**

400 私は今、福島県にいるんですけども、仮設住宅でのイベントはすごく結構あるんですけど
401 も。私の家族は、祖母とかもいるんですけども、1 度も仮設に入らないで借上げ住宅とかに住
402 んできたんですね。そうすると、もうそこで、でき上がっちゃってるから、今さら仮設の集会
403 には行きにくいと。だから、こないだ郡山でやった町のイベントは、初めてうちの祖母が行くと言
404 い始めて、もう 1 週間位前から興奮して、「会えるかな、会えるかな」とずっと言っていて、そう
405 いうイベントというのはすごく大事だと思うので、自治会に今委ねられてる部分が多いのかなと
406 思うので、もっと町主導で、いろいろなところでイベントをつくっていく。たぶん、ビックパレ
407 ット辺りで、もう 1 回あると思うので、それでもうちの祖母は芸術祭とかも喜んで行くと思うの
408 で、やってほしいなと思う。あとは福祉の方とか、可能であれば、まとまっている地域だけでも、
409 高齢者のいる家だけでも良いですし、月に 1 回でも、3 ヶ月に 1 回でもいいから、誰か高齢者の
410 様子を見に来てくれる人がいないのかなとか。うちの祖母は、誰か人が来てくれるとすごくうれ
411 しいので、高齢者はそうなのかなと思うんですね。なので、どうにか福祉の方で今、サービスが
412 どうなっているか分からないんですけど、それはあまり感じられていないので、うちは 1 つの家
413 族で住んでいるからか。仮設住宅に住んでいる人じゃないところでのコミュニティをどうやって
414 いくかというのを、もう少し考えていただければと思います。あとは、そういった意味でも、
415 前田とか郡山とか、いろいろとあると思うんですけども、そういう行政区にこだわることも大
416 事かもしれないですけども、また新たな隣組というのもあれですけど、郡山市内であれば、西部

417 1、西部2とか分けて、そこでの新しい双葉町としてのコミュニティを強化していくという意味
418 であれば、いっぱいいる地域だけでも、隣組長という訳ではないですけども、地区長とか何か
419 をつくって、何か集会ができるスペースとか、いわきとかにいっぱいいるのであれば、その人た
420 ちが集まりやすいような場所で集会を開くというのも、1つの案かなと思いました。

421 【齊藤 宗一 委員】

422 悪いんだけど。うちの行政区、仮設にいるからできた訳ではないよ。前田地区の夫妻と山田地
423 区の区長に会ったけども、みんなバラバラだかんね。その中で郡山は郡山で、加須から行った人
424 もいるし、あとは仙台の方から来た人もいるし。そうしてバラバラなところから人が集まってや
425 ってきたんですから。

426 【高野 泉 部会長】

427 私も森山委員の意見に賛成です。ということは、きずな、コミュニティとは、相手と連絡をし
428 たり、話し合ったり、お互い会話することです。婦人会の人も会員の方々と話すとか、仲
429 間同士が会話することが本当のきずなだと思います。町広報誌を見ると、大字単位で宿泊し集ま
430 っている行政区があります。これを見たときまだ実施していない行政区の人は、いいな、と思
431 います。ですから、私も考えていたのは、以前のようなその目的だけをやるのではなく、双葉町が
432 場所だけを提供し、全町民が一堂に集まれる所。一例ですが町民盆踊りなど。そのとき町民の皆
433 さんに集まっていたく、そうすれば友と逢えるのです。施設はグラウンドでもいいでしょう。そ
434 こは郡山市やいわき市でもよいでしょう。集まりやすい場所を提供する。私は最初に電話帳の話
435 をしましたが、それが大切だと思います。今、離れ離れの子どもたちを再会させています。先生
436 や友達と会い、子どもは喜んでます。きずな部会でできるかどうか皆さんの意見もあるかと思
437 いますが、ぜひ、どこかの大きな施設をお借りし、全国から町民を1カ所に集まっていたき双
438 葉祭りをやったらどうかと考えています。福島を英語で話すと、ハッピーアイランドなんですよ。
439 ハッピーアイランド双葉とか、きずな部会が全国の町民が集まれる場をつくってはどうかと考
440 えています。これは、私の意見です。

441 【松本 浩一 委員】

442 端的に申し上げます。みんなが双葉を好きだったし、今も好きでしょうけれども。その度合い
443 が非常に強いのは、今、森山委員が言ったような高齢者です。高度経済成長期に貢献してきたお
444 じいちゃん、おばあちゃんたちは、原発事故で避難させられ、最後にはしごを外されたと言
445 ことなのです。だから、うちの両親なんかも、本当に毎日寂しがっているんですよ。若い人は現在
446 の暮らしで精一杯。小学生も双葉のことを思い出してるかもしれないけど、今のところで、子
447 どもたちは楽しく精一杯の普通の生活を送っている。高齢者は人生の残りが少ないのだから、つな
448 がり大切にしたいと思っています。

449 【森山 真由美 委員】

450 高齢者がうれしいと、私たちもうれしいです。おじいちゃん、おばあちゃんが喜んでくれると
451 うれしいです。

452 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

453 私が説明しました資料の中で気になることあるんですけども、確かに森山委員が言うように、
454 借上げ住宅に住んで避難している方が仮設に来る、仮設のイベントに行くというのは、なかなか

455 行きづらいという話は聞いております。逆もあります。そういう情報が入っていましたので、当
456 初仮設の集会所で計画しましたが、それではダメだということで、市民センターなどを借りて、
457 ある程度バランス良く、実際は開催しています。これからいろいろご提案や議論をしていただい
458 て、見つけるということだと思いますが、やはり、1つに集まれるスペースというのは、資料の
459 意見などありますけれども、それも大事なことかなと考えます。以上です。

460 【高野 泉 部会長】

461 ありがとうございます。各委員なんかも、パーツ・パーツでは集まるようにしていますが、
462 なかなか全体的な集まりがないということですね。

463 【大住 宗重 委員】

464 委員として、まず先程、部会長も言われたように、あいさつ代わりに、どこにいるのか、とい
465 うことで、確かに、お互いのいる場所を知りたいと。それには個人情報に邪魔をしておりまして、
466 やはり自分で出せる情報を皆さんに承諾をいただいて住所だけでも良いですよ。電話できなく
467 ても、手紙でやり取りできますし、当然その世帯の名義のある方が1つ携帯番号を提供するよう
468 なことが。出せる範囲で皆さんの名簿を、情報を集めた電話帳を作成して居場所が分かるような
469 ものを、まずやらなくちゃならないのかなと。あと、次に、集まって、各行政区単位とか仮設、
470 それから借上げ、それぞれグループができています。ただ、先程もありましたとおり、それぞれ
471 が一緒になってというのがなかなかないということで、先程、部会長が言ったとおり、全体的に
472 集まれるような場所の設定を何らかの形でやらないと、先生もおりますが、子どもは再会の集い
473 もやっているんですが、だんだん今のいる学校が母校になるんですね。双葉中にしろ、双葉南小、
474 北小にしろ、校歌が歌えない子どもが出るというので、これも町では非常にスピード感を上げな
475 いと、中学3年生ですと、避難でいる先が母校になると。双葉中と言われてもピンと来なくなっ
476 てしまうというのが、非常に心配です。ですから、その辺の子どもたちの対応を早くしないと、
477 というのがありますので、もう少し、子どもたちの対応の何か良い方法を考えないと、避難先の
478 学校が母校になってしまうという、非常に危惧するところがあります。そういったことを、やは
479 り進めなくちゃならないかなと思うんです。あと、私の仕事の部分の、先程、事務局の方からあ
480 りました情報の出し方。これもいろいろ情報が足りないということがありましたけれども、情報の
481 手段、幾つか、紙と電子情報。そういった中で、確かに今の町の動きが見えないというのが、
482 決まってからしか情報が出ないものですから、なかなか中間の動きが、やはり住民にはなかなか
483 うまく伝わらないというのが、その辺が情報が無いという部分になっているのかなと。情報は結
484 構出しているつもりなんです、その辺は皆さんに、情報の出し方、何か提案などあればお願い
485 いたします。

486 【岡村 隆夫 副部会長】

487 今日もあるトップとも話を聞きたいんですが、情報にもいろいろな情報があるんですよ。1
488 ヶ月遅れで毎月出てきます。それはそれなりの情報でいいと思うんですが、皆さんが今1番大事
489 なのは賠償とか放射能の問題とか、そんなことが非常に心配な訳なんです。誰も、今日、高野委
490 員があれだけのことを言ってくれたんで助かっていることなんです。やっぱり、これからどう
491 したらいいんだか分からない中で、いろいろなことを考えるのは非常にまた難しいですよ。だか
492 ら、町として、もう少し情報を出せば、逆に情報を出すことによって、このきずなも近付いて来

493 るんじゃないかと。それがあると、次の情報はどうかと、町の方に顔が向くというのが、やっ
494 ぱり、この情報の大事なところかなと思っているんで、その点はお願ひも含めて、私の意見とし
495 て言っておいた方がいいかなと思っていますね。

496 【齊藤 宗一 委員】

497 加須にいる人には大変申し訳ないけども、聞きに来るのにも役場が遠いのな。この間、二本松
498 で農協の会議あったんだけど、部会長会議、役員会議、調査委員会のです。存続するか存続
499 しないかという話から。みんな頑張っているから顔見て話したいから、実費出しても来る人は来
500 るから、1年に1回の総会はやるように、この会は存続していきましょうと。補償・賠償問題も
501 あるし、普通の話もあるからということで話をしてまとめたんだけどね。去年できなかった
502 から、今年はやりましょうと。そんなことで総会をやろうとやったんですけども、行き会
503 うのが遠かったならば、行き会えるようにするのが大切でしょう。それを導いてやる。それが必要な
504 のかな。

505 【高野 泉 部会長】

506 この辺で宇杉先生に一度意見をいただきましょう。まだ残り時間がありますから中間として。
507 先生は双葉町民ではないので、外部から見た全体像が見えると思います。先生意見を願ひしま
508 す。

509 【宇杉 和夫 委員】

510 私は、双葉町というのは、外から見て最初に出た本質というのは、一般的な町民主体の活動。
511 要するにコミュニティというものをどう捉えるか。町主体の活動、いろいろとここに課題として
512 出ていることです。それもその少し別れちゃった地元の自治会と自治会が、ちょっと離れたとこ
513 ろのつながりをどうするかという問題と、もう1つは、その地域のコミュニティと、例えばこ
514 こでいえば埼玉とのつながり、という問題。これらは、今お話を聞いた範囲では、今気づいて
515 ることをどうしたらいいかという解決の方法だと思っているんですよね。そこから段々、その解
516 決の、町民活動の前に、もうちょっと情報とか基本的な骨組みの整理をやらなきゃいけない。お
517 そらくコミュニティと言った場合、市民が活動するというよりは、コミュニティというのは概念
518 は難しいですけども、基本的には、地域に結びついた概念なんですけれど、段々と、情報でも
519 コミュニティになってくるから、難しくなってきましたけれども、いずれにしても、そのコミュ
520 ティシステムというのをどう考えるか、ということだと思っただけです。その時に、やっぱり、少
521 しコミュニティというものをもう1回考えて、コミュニティの持続と言った場合に、一般的にサ
522 ステナブルという、サステインというのは持続するということですけども、持続するコミュ
523 ニティとすると、何を持続するのかと、こうなる訳なんですよね。それが人と人という話から
524 始まって、人と人なんですけれど、私は空間研究をやっているんですけども、コミュニティデ
525 ザインというのが、やや一般的になってきますけれども。コミュニティというのを空間とするか、
526 人と人とするかですけども、それはある意味で一緒なんです。人と人の関係ができないと、
527 例えば、生活復権の空間もできないですから。ですからコミュニティというのは、そういう空間
528 をデザインする土台として、人と人の空間は、つながりはどうかと、まず、その時に、現状
529 を知らなければいけないということで、お前どこにいるんだ、なんです。現状を知らないとい
530 けない訳ですから、お前どこにいるんだというのが挨拶になってくるんですけど、その次に

531 は、どうしているかと、現状を知った上での、問題解釈ですよ。最後に結論なんですけど、結
532 論ばかり言っていてたぶん進歩がないと思うんです。ですから現状から、お前どこにいるん
533 だというのが情報の中に少しでも分かるような仕組みをつくらないと、それから、元気か、とか、
534 この段階的な理解の問題を挙げないと、一般的な話では難しいと思います。その時に情報の問題
535 とか、個人情報の問題とかあると思うんですけど、基本的には、コミュニティと言った場合には、
536 本当は、町村別にコミュニティがあって、人の努力があって、こうやって1つのつながりになっ
537 たはずなんです。それをまず持続するかどうかなんですけれども。第1に把握するのは、元々
538 のやつを把握しないと。それを除いたら双葉町民で無くなっちゃいますので。そこは、どこに居
539 て、どこの学校に行って、当時のコミュニティが、どれ程当たり前とっていたことがよかった
540 んだというのを先ず整理しないと。それが動いてどのような問題になっているか。子どもと高齢
541 者と。移動の場所は仕事の理由もあるでしょうけど、子どもの問題が大きいでしょうね。基本的
542 にはね。子どもたちの課題をどうつなげるかと。空間計画の場合、コミュニティと言った場合に、
543 コミュニティを計画する場合、大体真ん中に学校をつくるんですよ。これはヨーロッパから教
544 えてもらった方法です。そのコミュニティを持続するために、子どもをどう教育するかというこ
545 と、地域コミュニティが参加した方が良くないかという議論もあるんですけど。学校と
546 子どもが重要な議論になっているんですよ。子どもがどう動きたいかは、子どもに聞くだけじ
547 ゃなくて。子どもに本心を聞いたら悲惨な状況になると思います。なぜこのような事態を子ども
548 が受け入れなければならないのでしょうか。その問題をどう捉えて、大人がどう行動していくとい
549 う決心を少ししてやらないと。子どもが信じられない社会が来るんじゃないかと思うんですよ。
550 ヨーロッパのコミュニティと違って、日本の場合は、空間、場所とか、歴史的な景観とか、自然
551 がすごく関係するんです。お祭りとか神社とかも含めて、自然がというものが。ヨーロッパは建
552 物だけだけれども。自然というものがなくなって、ふるさとがなくなって、コミュニティは、あ
553 る程度子どもが基本なんです。体験できた原風景をどう把握しているかという、加須にあっ
554 ても、この町にいて、やっぱり違うと思うんですよ。木が、森があったって、自分のものじゃ
555 ないと思うんですよ。その辺をどう回復するかという長い道も考えることになる。もう相当長
556 い道筋に行くというプロセスですから。たぶん、今まであったコミュニティ継承の同様の仕組み
557 を使うという訳にはいかないです。次世代も含めてその子どもが元に戻っていけるという形を50
558 年、60年、ある意味、体験したことのないコミュニティを運営し活動していくという仕組みを
559 つくらなきゃいけないと思います。

560 【高野 泉 部会長】

561 ありがとうございます。なかなか難しい。コミュニティは、ソフトとハードがあって、やはり
562 ハード的なこともね、いろいろ。

563 【宇杉 和夫 委員】

564 まずは現状を把握して、それから問題を整理して、それからどうするかという順序を。

565 【高野 泉 部会長】

566 現状を把握して、そこから入って行ってということなんです。問題に入ることなんでしょう。

567 【宇杉 和夫 委員】

568 仮設住宅で言うと、集会所があるかないかね。その辺は全部整理して、借上げの人はセンター

569 みたいなどころがある訳ですよ。どのくらい利用しているか、その現状をまず把握しないと。
570 全部これは、あとで復興計画に全部関係するから。その土台がなくて、いつも議論するから。

571 **【岡村 隆夫 副部長】**

572 コミュニティというのは、まず1つに考えた時には、これからの町の復興を考えても、現実的に
573 は双葉町がどこかへすぐにできるということは、まずあり得ないということも、現状として意識
574 しないといけない。そうすると、小さなところからスタートするようになるだろうと思うと、今
575 のコミュニティのつくり方とほぼ変わらないですから、今のコミュニティのつくり方を真剣に考
576 えた方が良いかなと思いますね。一例を申し上げますと、皆さんのところにもたぶん行っていた
577 と思うんですが、私は鈴木先生から聞いたんですけども、浪江の場合は、請戸地区は放射能が低
578 線量なのであそこに宿泊施設をつくろうかと。宿泊施設をつくって、帰った時にあそこに宿泊し
579 て、皆さんと交流するようなことをやっているようなんです。ただ、やっぱり、最初に齊藤委員
580 から出ましたけれども、「元気か」と。「会いてえな」と。やっぱり、顔を見ながら、手を握った
581 り、肩を触ったりして話をするのは、コミュニティの基本中の基本だと思うんです。だからや
582 っぱり、集まるのが、その次に大事なことだと。これが復興のまちづくり、この上の会議の中
583 では、私は申し上げるつもりなんだけども、やっぱり、このコミュニティを考えた時には、でっ
584 かい集まれるような場所ができないかと。ただ、ここで1つ大きな問題があって、各自治体が非
585 常に難色を示していることも事実であると。これは、皆さんにお話しておかないといけないかな
586 と思うんですが。それについては、町長の方も頑張ってくれて、今やっていると思うんですが、
587 やっぱり、そういう概念の中でというか、そういう頭の中で、これからどうやって皆さんと連絡
588 を取って、できるだけ会う機会をつくって、どうやって何か行事をまずやるということが、この
589 きずな部会の基本姿勢として考えていったらいかがかなと。

590 **【高野 泉 部長】**

591 みんなの考えもそういうことですよ。

592 **【宇杉 和夫 委員】**

593 あともう1つ、コミュニティの問題というのは、加須にもある訳なんですよ。日本中にある
594 訳ね。元々は、震災があったから、こういう問題が起こったんじゃないかと、もうすでにある訳で
595 すね。そういう問題とすごく関係してる訳です。特に支援する側が避難の方が来れたから、どう
596 ぞ、という仕組みを日本の中につくっていかなくちゃいけない。それがないと子どもたちについて
597 は、ここが第2のふるさと、場合によってはそれ以上のふるさとになってしまうかもしれないじゃ
598 ないですか。そういう仕組みを外の問題につなげていかないと。

599 **【高野 泉 部長】**

600 まだ意見があれば時間があるので出してください。夢、ドリームですけれども、夢を語って実
601 現のため精を出す。壮大なものをつくるのが本当の愛かもしれません。きずなは皆さんからの
602 意見からすると、お互い握手をしたり、一人ひとり尊重することで、本当のきずなが生まれる。
603 人と人をつなぎ、支え合いや助け合い、そういうことが大切であります。そのような実現のため、
604 一度町民全体が集まれる場所を確保し行っていければと思います。町民の意見、提案の資料を見
605 ても出ています。全体が集まれる場所を提供するだけでよいと思います。あと、新電話帳ですが
606 きずなを維持するためにつくって、助け合い、サポートできるようなことを考えたらどうでしょう

607 か。

608 【森山 真由美 委員】

609 いろいろ集まる場所は、やっぱりほしいんですけど、いろいろつくる時に、いわきとか郡山と
610 か福島に。そのうちの1個に学校というものをつくるのは難しいんでしょうかね。学校の校庭、
611 福島県内でいろいろ廃校になっている学校もあるじゃないですか。そういうところとかを打診す
612 るとか、何か廃墟になったホテルを打診するとか、そうやって実際に、いろいろな自治体で廃校
613 になった学校を使って、学校に入っているという、入ろうとしている学校もあるので、県内で。
614 そういう学校をつくって、そこに地域の人が集まるとかというのは難しいのかなと。理想にな
615 っちゃいますけども。そういうところを考えていくのはどうかなと思います。

616 【宇杉 和夫 委員】

617 ここも学校ですよ。高校ですけれどもね。

618 【高野 泉 部会長】

619 葛尾村は要田中学校が今度、廃校になるから利用して、学校をつくると言ったね。それいうの
620 も一理あると思いますね。

621 【宇杉 和夫 委員】

622 今、町民へ全部、一方向で通知が行っている訳ですよ。二方向にするか、また、相互間で
623 できるかとか、いろいろなタイプがありますけど、どれに1つという訳ではなくて、少し総合的に
624 考えていくと。同じように。とにかく、みんなが集まる場所も良いですけれども、それに限らず、
625 どういう仕組みがあるかというのを、少し幅広い視点で。行けない人は行けないですから。嫌な
626 人もいる訳ですから、その人たちの要望をどうつなげて、どう束にしていけるかと。学校なんか
627 も含めて、新しい仕組みができると思うんですよ。

628 【高野 泉 部会長】

629 やれば簡単なのかもしれないし、細かく考えると難しいかもしれない。ただ、我々としては、
630 やはり、先生もそういった話も出てますし、あと松本校長からも出ましたけれども、集まりたい
631 という意見は、確かに、高齢者・大人かもしれません。だけど子どもたちも同じであります。次
632 の世代、子どもたちを考えると、そういうきずなづくりをしてあげないと。どうでしょう。そこら
633 辺をよく考えて、大人、高齢者、これはもちろん大切ですが、排除するんじゃないで、子どもた
634 ちを今後幸せに暮らしていけるようなきずなづくりをしてあげないと、やっぱり本当のまちづく
635 りというのはできないのかな、コミュニティづくりというのは、そうだと思います。

636 【松本 浩一 委員】

637 学校の再開について、再開させるのは町ですけれども、やはり、その学校に入ったら何らか
638 の特色があって、子どもたちはこう育ちますよというような理念やらそういったものがないと厳
639 しいのかなと。「双葉に戻って来て」と言っても、時間も経ちましたし、それに今の生活を投げ
640 打ってというのは、仕事があって今が安定している人が、そこまで翻すのかと1番懸念されると
641 思うんですね。その特色が何なのか、そのイメージはと言われても、今は言えないんですけど
642 も、考えたりもします。それから、ある程度どこかで始まるとしたら、その地区の近くの人た
643 ちが最低でも集まって来るようなことにしないと、なかなか厳しいのかなと。子どもは少なくても
644 も再開したいけれども、というのが現状です。いずれしても学校再開条件は、少人数教育の徹底

645 で学力アップとかの良い条件を提示しなければならないと思います。

646 【高野 泉 部会長】

647 親身になると小学生の子どもを持っている親、また、乳児を持っている親。その環境、環境で
648 心配事というのは違いますからね。高齢者抱えて、病人かかえているともなればまた、違うし、
649 これは千差万別で難しいし。だから、きずなにもいろいろありますから。これ、1つ1つできる
650 ものから考えて、まとめていかなければならないのかなというふうに思いますね。

651 【宇杉 和夫 委員】

652 コミュニティの目的は、いろいろな交流による楽しいことよりは、防御とか、これだけは守る
653 とか、そういったものが基本です。問題があって、それをどうしようかというものがあつた
654 場合です。問題がないと、問題をどうするかで、その中の問題の中には、他から注目しているの
655 は放射能の影響、食べ物関係からすべてそのような生活の中で、子どもたちにどういうふうにて
656 できるかと。それを総合的にやるという形になってないですね。そういうものをコミュニティの中
657 で、帰れないときに分かっている範囲の中で、我々大人はここまではやったというものを示して
658 ということですね。

659 【高野 泉 部会長】

660 あと、最後まとめということで、今出ましたけど、岡村副部会長の方から考えとしては。

661 【岡村 隆夫 副部会長】

662 長くなるということをもまず1つ念頭に置いて、その中で、皆さんと今、私も他の人たちの中
663 に入っていますけれども、やっぱり、心を開いて話ができるという段階になるまでには相当時間
664 がかかるし、ある程度の年代になってくるとなおさらだと。子どもたちは割とそれは早いかもしれ
665 ない。だから、やっぱりこれは早急にまとめ方というか、きずなをつくる手段を皆さんの知恵を
666 お借りしてつくって、それでまず、復興のまちづくりができた後にもそれが本当に生きていくよ
667 うな、スタートにしていだきたいと、そういうふうに思っておりますので。また、今回は概念
668 的にいろいろなことやりましたけれども、やはり、このアンケートを見て、私見たんですが、情
669 報が足りないというアンケートの結果ですね。エコエナジーラボさんの町の中での意見を集約す
670 ると、情報がほしいというのが、ものすごく多いんですよ。やっぱり、それだけ不安に思ってい
671 るということなんで、その辺を解消するためのきずなづくり、まちづくり、村づくりというか、
672 そういうことへこれからのご協力をお願いするしかないですよ。こんなことでどうでしょうか。

673 【高野 泉 部会長】

674 あと何か、皆さんから言い忘れたとか。

675 【松本 浩一 委員】

676 これは、この後は、次回の時にこの報告があるのでしょうか。

677 【岡村 隆夫 副部会長】

678 ありますね。ここで考えたことを委員会で話をして、また他の委員からまた意見が出てくると
679 思うんで、それをまた吸収しながら進めていくという考え方でいます。

680 【齊藤 宗一 委員】

681 ぜひ役場でやっていただきたいのは、訃報の知らせな。

682 【岡村 隆夫 副部会長】

683 情報だね。

684 【齊藤 宗一 委員】

685 もし、誰かが亡くなって葬式したならば、その人の行政区の人に教えてあげないと。なんでも、
686 その行政区だから。そしたら、その行政区の人は、誰々君のところの誰が亡くなったという連絡
687 をする。それくらいは教えても良いのかな。別に個人情報保護することじゃないと思うんだけど
688 ね。

689 【岡村 隆夫 副部長】

690 そうでないと、きずながなくなっちゃうんですよね。それまで無くなっちゃうと。

691 【齊藤 宗一 委員】

692 町長に頑張ってもらって、行政区の人に教えてやって、その区長に教える、という流れくらい
693 位はやってもらいたいと思う。

694 【高野 泉 部長】

695 それも、亡くなった家族の同意をとらないといけません。

696 【大住 宗重 委員】

697 今の件ですけれども、前からもそのような声は出ております。ただ、亡くなり方によっては、
698 知らせたくない方も中にはいるんで。今、避難先で届けなんです。前は、双葉町の中の戸籍で
699 キャッチボールできたんですが、何日か経って、こちらに郵送されるということで、その辺がち
700 よっとできなくて困っているような現状ですね。

701

702 (2) その他

703

704 4. その他

705

706 5. 閉 会

707 【高野 泉 部長】

708 事務局の方は大変だと思いますけど、今の内容を整理し、まとめお願いしたいと思います。ま
709 た、今回は、議題にありましたけれども双葉町の歴史と文化の継承を中心に議論していきます。
710 その他でも構いませんが検討していただければと思います。そのようなことで、きずなは、人と
711 人とのつながりですので、助け合うということで進めていきたいと思います。今日はどうもあり
712 がありがとうございました。

第1回きずな部会座席表

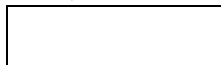
(敬称略)

1 日時 平成24年11月12日(月)

14:45~16:30

2 場所 双葉町埼玉支所 4階 4-C

副 部
部 会
会 長
会 長



岡村 隆夫
高野 泉
中村 富美子
松本 浩一
森山 真由美

宇杉 和夫	橋本
齊藤 宗一	事務局 西牧
大住 宗重	大内
今泉 祐一	事務局